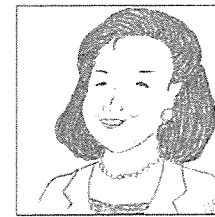




(さかわ・やえこ) 1944年生まれ。千葉県出身。65年登用ゴルフ入社、70年桜ゴルフを設立、代表取締役就任。一般社団法人ニュービジネス協議会初代女性委員会委員長を務める。第10回経済界大賞フラワー賞、米国スターグループ世界優秀女性起業家賞など、受賞歴多数。

トク 燦々 [sansan] 前編

45年を振り返って



佐川八重子氏 (桜ゴルフ社長)



佐藤有美 (さとう・ゆみ)
経済界代表取締役社長。経済界創業者・故佐藤正忠の長女として事業を継承し、2001年10月、社長に就任。

今回は、尊敬する女性経営者の1人で、私の父の代からお世話になっている桜ゴルフの佐川八重子社長をゲストに迎えました。今年で創業45周年を迎える桜ゴルフのこれまでの歩みを振り返るとともに、佐川社長と当社のかわりについてもお話しいただきました。

業界に革命を起こし 世間の評価を変える決意

佐藤 今年で創業45周年ということで、本当におめでとうございます。女性が働くことが珍しい時代に創業して、これまで大変な苦労があったのではないですか。

佐川 最初は私はデザイナーを夢見ていたのですが、その道を断念。昭和45年にゴルフ会員権売買の会社桜ゴルフを銀座に立ち上げました。顧みまずと山あり谷ありの険しい道の手を経て、無事今日にたどり着くことができました。私がゴルフ業界に入ったところは、新設コースの募集が主で体当たりセールスなど世間のひんしゆくを買って取りましたため、既設の会員権売買の仕事も同類とみられていました。「何とか差別化をしなければい



けない」。お客さま側に立った意義のある仕事で「社会的信用が得られないのはおかしい」、それがやがてコンサルティングビジネスを提唱していくことにつながったのです。創業当初から10年は女性だけの会社でした。幸い高度成長に乗ったこともあり、3年で売り上げは30億円までの

いことだと思っています。

佐川 試練を与えられるたびに力が付きました。環境が悪いときは知恵や工夫がうまれて力が育ちますし、そうやって、あつという間に45年が過ぎていった感じです。

ゴルフ場経営で挫折 死のうとさえ思った頃

佐藤 ゴルフ業界はバブル崩壊に直面したり、最近では少子化で競技人口が減少したりと、環境的には厳しい面もあります。苦しい時期を乗り越えてこれれた秘訣を教えてください。

佐川 会社設立10周年の集大成としてゴルフ場経営に挑戦しました。しかし、共同経営者の背信行為により一年半で経営から撤退する羽目となりました。期待に応えられない慙愧の気持ちから一時は死を考えたこともあり

ました。会員に対する5億円相当の返済義務も生じ、気の遠くなるようなお話でしたが、完済には14年かかりました。言葉に表すことのできない試練の日々であつたことを思いだします。その経験から、良かったことは人のおかげ、悪かったことは自分のおかしいという思いで対処できるようになりました。どん底から這い上がる私を見ていただくさつたお父様の佐藤正忠様が後に「経済界大賞」のフラワー賞を授けてくださったのです。私の人生で最もうれしい出来事で、生涯忘れることはありません。

佐藤 そう言っていただと非常にうれしそうです。父は晩年に車いす生活になるまでゴルフが大好きで、ゴルフ場の会員権もたくさん持っていました。とても懐かしいですね。

(次号、後編に続く)